

平成23年度 決算説明書／事務事業評価シート

前年度課室名	生涯学習課
課 名	社会教育課

預算	款	項	目	決算書	
	10	5	1	212	頁

目 名
社会教育総務費

事務事業名称
青少年健全育成事業

1. 概要

目的	青少年が年齢に応じた発達ができる環境をつくるため、学校地域と連携し家庭教育や地域の教育力の向上を図り、学校を支援する体制に努める。	対象	市内青少年
事業概要	○郷土の先輩特別授業・・・豊後大野市出身者で、活躍されている郷土の先輩を市内の中学校に講師として招き特別授業を実施 ○子ども郷土芸能大会事業・・・学校行事及び会場予定の調整がつかず実施できなかった ○放課後子ども教室事業・・・補助事業で、放課後の子どもたちの安全で健やかな居場所づくり ○成人式事業・・・新成人を地域全体で祝う目的で成人式を開催 ○青少年健全育成市民会議補助事業・・・市内の青少年健全育成のため、市民会議に補助金を出し講演会等を開催		

臨／経	事業名	事業内容（主な経費等）		予算現額 （千円）	決算額 （千円）	財源内訳				評価
						国・県支出金	市債	その他	一般	
臨時	郷土の先輩特別授業	中学校7校	報償費	281	273			273		3
臨時	子ども郷土芸能大会事業	0回	報償費	400	0					1
臨時	放課後子ども教室事業	1箇所（緒方） 参加者延べ975人	報償費	1,190	839	392			447	2
経常	成人式事業	1回 出席者270人	報償費	801	621				621	3
経常	青少年健全育成市民会議 補助事業	1回 参加者約300人	負担金補助 及び交付金	350	350				350	3
計				3,022	2,083	392	0	273	1,418	

2. 指標設定

成果指標	指標名		青少年健全育成		目標年度	H27	指標の設定理由					
	数値		—				総合計画／後期基本計画において、基本施策(1-3-3)の重点施策のため					
活動指標	指標	a	郷土の先輩特別授業		b	子ども郷土芸能大会		c	成人式		d	「次代を担う豊後大野つ子」を育てる市民の集い
	数値	目標	1回／年		目標	1回／年		目標	1回／年		目標	1回／年

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H 2 1	H 2 2	H 2 3
青少年健全育成		—	—	—

活動指標名	単位	H 2 1	H 2 2	H 2 3
a 郷土の先輩特別授業	回	0 回	1 回	1 回
		—	100 回	100 %
b 子ども郷土芸能大会	回	0 回	1 回	0 回
		—	100 %	— %
c 成人式	回	1 回	1 回	1 回
		100 %	100 %	100 %
d 「次代を担う豊後大野っ子」を育てる市民の集い	回	1 回	1 回	1 回
		100 %	100 %	100 %

課題	
青少年健全育成を推進するうえで家庭・地域の役割は大きく、これらの教育力の向上に向けた施策の効果的な実施が求められている	
対応（改善点等）	
社会教育と学校教育の連携を推進し、学校支援事業等を実施する	

4. 課題と対応

5. 事業費・・・H21～H23（決算額）、H24（予算現額）

決 算 額（千円）		H21	H22	H23	H24
うち経常経費		3,309	2,878	2,083	3,285
		3,309	1,294	971	3,285
財源内訳	国 費				
	県 費	1,105	573	392	476
	市 債				
	そ の 他		562	273	1,283
	一般財源	2,204	1,743	1,418	1,526
うち経常		2,204	1,294	971	1,526
事業費に係る人件費		17,408	16,862	9,417	8,974

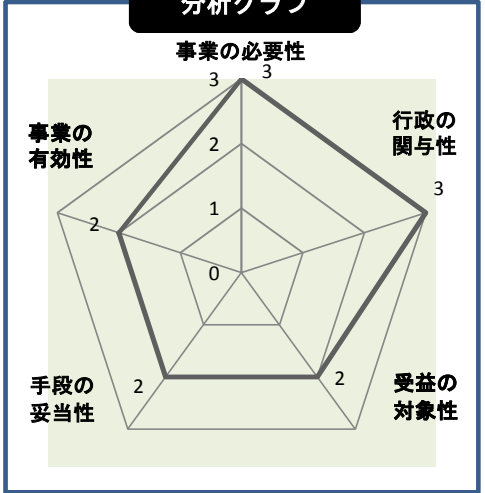
6. H25年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
豊後大野市の未来を担う子供たちに多様な事業提供のため

7. 担当課による分析

着眼点		分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3	将来の明るい社会構築のため、次代を担う青少年健全育成の事業は欠かせない事業であるため
② 行政の関与性	責任領域の精査	3	青少年の健全育成の取り組みは、行政が責任を持った取り組みが必要であるため
③ 受益の対象性	事業対象の確認	2	全般的には市内全域を対象としているが、放課後子ども教室が一部地域に偏っているため
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	2	実施計画を指標としているが、参加率等も考慮する検討の余地があるため
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	2	郷土芸能大会が諸事情により実施できなかったため

分析グラフ



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	課題に対応するとともに経費の一層の削減に取り組むこと